

医療費を有効に使うポイント

病院のかけもちはやめましょう。

医療機関をかえるたびに検査や薬等が重複する場合があります。

かかりつけ医をもちましょう。

病歴・体質等を把握していることで治療効果が高いと考えられます。

時間外、休日受診はなるべく避けましょう。

初診料などが平日などと比較して高くなる場合があります。

定期的に健康診断を受けましょう。

病気の早期発見、早期治療につながります。

むやみに薬をほしがるのはやめましょう。

病気に合った薬を服用することで治療効果も上がります。

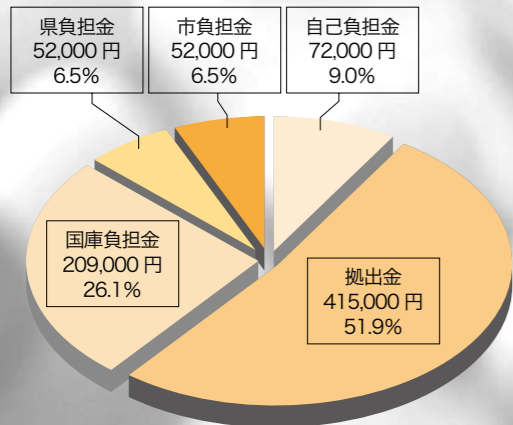
生きがいをもちましょう。

明るく楽しい生活を送ることにより老化の予防になります。

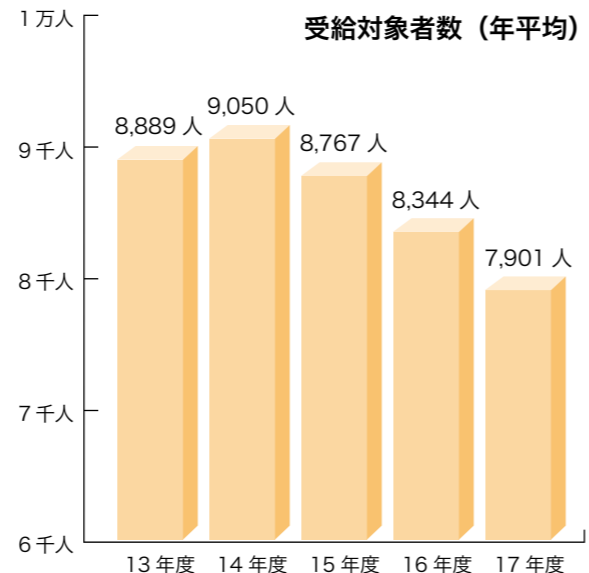
※グラフは全て合併前の旧6町村を合算し作成したものと なっています。

グラフ4

三好市民一人あたりの医療費 (約80万円) 費用負担内訳

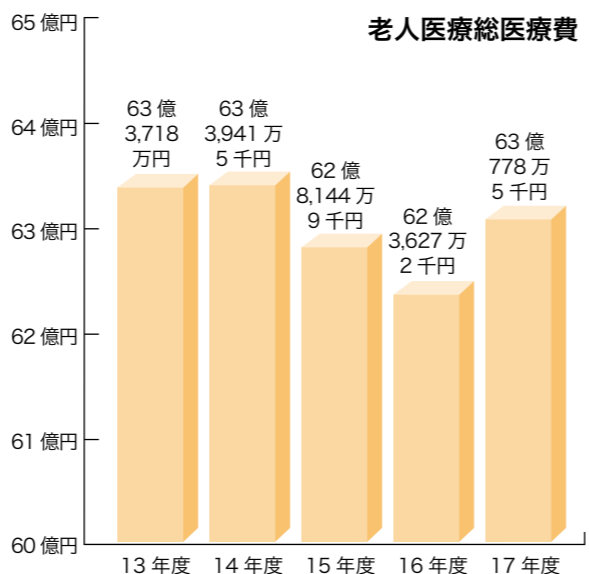


グラフ1

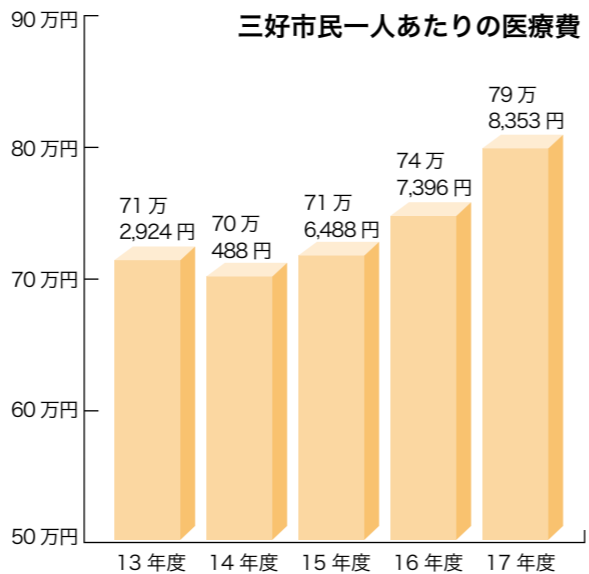


◎ 制度改正により、障害者等を除いて平成14年11月から平成19年9月までの間は新たに老人医療受給対象者となる者はいないため受給者数は減少しています。

グラフ2



グラフ3



みんなで考えよう老人医療費

老人医療費が増えています

高齢になると生活習慣病など慢性的な病気を抱える方が多くなるため、高齢者の医療費は増える傾向にあり、三好市においても老人医療費は増え続けています。

老人医療費の現状を知り、どうすれば医療費がより有効に使えるか、皆さんも考えてみましょう。

老人医療費の現状

三好市の老人医療受給対象者数(グラフ1)は、平成18年12月31日現在で73,888人となっております。これは市総人口341,333人の約22%を占めています。

平成17年度の合併前旧6町村の老人医療費の総額は63億7,780万5,247円(グラフ2)となり、平成14年10月の制度改正によって受給者数は減少しているにもかかわらず、前年度に比べ1.15%(金額にして約7千万円)の伸びとなっております。また一人当たりの医療費においては79万8,353円となっており、前年度に比べ6.82%(金額にして約5万1千円)も増えています。

今後とも老人医療費は、高齢化の進行などの要因により確実に増え続けて行くことが予想されます。

老人医療費の費用負担

老人医療受給者が病院や診療所

で治療を受けた際にかかった医療費の財源は、受給者が負担する一部負担金、医療保険の各保険者が負担する拠出金及び国・県・市でうけおっています。

昨年度の旧6町村を例にとると、一人当たり医療費(グラフ3)が年間で約80万円かかっており、受給者の自己負担が約7万2千円(9.0%)、各保険者の拠出金が約41万5千円(51.9%)、国が約20万9千円(26.1%)、県・市がそれぞれ約5万2千円(6.5%)を負担したということとなっています。(グラフ4)

また、前述の各保険者の拠出金は、皆さんや皆さんの家族、周りの人達が負担する国保税や保険料の中から支払われるものです。そうした性質上、医療費が増加すれば、それだけ国保税等が高くなると考えられます。

このように老人医療は多くの人達によって支えられて成り立っている制度ですから、十分に理解したうえで、医療費に関心を持つとともに、いつまでもはつらつとした人生を楽しむことで医療費の無駄を省き有効に使いましょ。

お問い合わせ先

三好市役所保健医療課
電話 7217613